

開催地名	岡山県倉敷市
開催日時	令和5年9月1日（金） 11：00 ～ 11：45
開催場所	倉敷市立乙島東小学校
語り部	杉田 精司 （広島県広島市）
参加者	学校児童・教職員 170 名
開催経緯	本校では平成 30 年 7 月豪雨災害により、市内の真備町が甚大な被害を受けたにもかかわらず、教員や児童の危機意識は年月とともに徐々に薄れている。 南海トラフ巨大地震など、いつ起きるか分からない災害に備え、教員と児童の防災意識を高め、継続できる取組が必要であると考えている。
内容	（１） はじめに 6.29 大災害は 1999 年 6 月 29 日に広島県で発生した集中豪雨である。県全体で死者 24 名・家屋全 65 棟・325 件の土砂災害などの被害が出たが、河内地区だけでも死者 10 名・負傷者 11 名・家屋全壊 39 種など被害は甚大であった。この大災害によって、土砂災害から人命を守るために土砂災害防止法が 2001 年 4 月 1 日に施行された。そのような中、河内地区は土砂災害特別警戒区域や警戒区域が多いことに気づかされ、防災の取り組みを開始した。 （２） 災害を忘れないために 河内地区では大災害後は喪に服していたが、秋には「元気をだそう会」を開催。この会が現在も毎年 6 月末の日曜日に行われる「忘れまい 6.29 集会」の始まりとなった。また、この災害が忘れられてしまうことを危惧し、2012 年に住民の寄付により 7 トンもある転石を加工し、公民館の前に「忘れまい大災害」の碑を設置した。尚、この石碑には江戸時代からの災害記録も刻字されており、後世へ大災害の伝承を行う河内地区の防災のシンボルとなった。 （３） 災害に備え、命を守るために 2001 年「6.29 土石流災害の記録」の冊子を発行。同年、「命を守る行動」の取り組み開始。2008 年、災害の記録などを記載した防災案内板の作成開始。2013 年「河内地区情報メール」を設置し、防災情報などの一斉配信を開始。2014 年、5 法人と災害相互応援協力協定を締結し、一時避難所を確保。2016 年には「防災紙芝居」を作成し、災害意識を高める活動を行う。 2019 年「6.29 大災害の記録 DVD」作成。2020 年、浸水想定区域を記載した「防災マップ」を町内会毎に作成し、全世帯へ配布。2021 年「河内防災の日」制定。尚、河内小学校は毎年 6 月 29 日の「河内防災の日」に防災訓練を実施。2022 年、広島工業大学によ

	る「河内地区3Dマップ」を作成・シミュレーションなど、大学・行政・地域の連携による防災・減災活動を強化した。また、「6.29大災害」以上の降雨量となった令和元年の東日本豪雨での伊豆地域を参考にして、住民へのより早期の避難及び行政への河川の護岸補強を促した。 20年以上の月日が経ち、傷跡も薄らいできている。防災の日を制定するなど忘れ去られない取り組みを行いつつ、避難の大切さを呼び掛けていきたい。  
開催地より	杉田氏が講義の中でお話しされていたように、いつ起きるかわからない災害に備え、災害を忘れ去らない取り組みや継続した防災活動を推進できるよう関係資料の収集や地域・行政単位での連携を図りたい。